

項目	観点	教科書名					
		NEW HORIZON(2・東書)	SUNSHINE(9・開隆堂)	NEW CROWN(15・三省堂)	ONE WORLD(17・教出)	Here We Go!(38・光村)	BLUE SKY(61・啓林館)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養うために、どのように配慮がされているか。	・1学年のUnit5まではUnit本文の前にEnjoy CommunicationがUnit6からはPreviewが設置されており、小学校の素地を生かした表現活動を行ったり映像を見て、文法を使用する目的・場面・状況に気づくことができたりするように工夫されている。 ・Unit Activity(Unitのあとの表現活動)やStage Activity(いくつかのUnitの後の表現活動)が3年間を通して計画的に配置されており、統合的なパフォーマンス活動を行い自己表現ができるように配慮されている。	・Program本文の前に、Scenesが設置されており、文法を使用する場面を2コママンガの対話形式で示してあることで、言語材料を場面で導入できるように工夫されている。 ・Try(常活動で行うSmall Talk),Interact(Programごとにと与えられたトピックで行う即興のやり取り),Our Project(いくつかのProgram後の自己表現活動)とスモールステップを踏んだ3つの活動を通して伝え合う力が育成されるように配慮されている。 ・本文の後のRetellでは、本文について写真や語句をもとに、自分が言える内容を選んで話す活動を行うことで、自分のことばで表現できるように工夫がされている。	・とびらでは、動画や写真を活用したインタラクティブを行うことが可能となっており、Lessonで学ぶ題材や場面を確認できるよう工夫されている。 ・Lessonの後にGET Plusが設置されており、会話の場面を表す3コマのイラストと短い対話文で、会話の中で使われる表現と言語の働きが分かりやすく提示されている。 ・GETで習得した知識・技能をUSEで表現活動に生かすには工夫が必要である。 ・GET Plus、Take Action,Project(いくつかのLessonの後の表現活動)では、領域統合型の言語活動を通して、既習の言語材料を活用できるよう配慮されている。	・Activities Plus(学習した表現を活用する活動)では、やりとりに必要な表現例が多く示されており、やりとりの幅を広げながら即興で話す力を育成できるように工夫されている。 ・Project(いくつかのLessonの後の表現活動)では、多様な場面の中で、複数技能を総合的・統合的に活用することができるよう配慮されている。 ・Lessonの本文の大部分がダイアログで書かれており、実際の場面を意識しやすい工夫がされている。	・帯教材では、やり取りを継続する上で重要なアイディアが示されており、自己表現活動を充実させたり、即興で話す力を育成したりすることが期待できる。 ・巻末のStory Retellingでは、本文について写真や語句をもとに、話す活動を行うことで、自分のことばで即興的に話す活動ができるように工夫がされている。	・実在の人物や実際の出来事を題材として扱っており、自分の意見や考えを伝えたいと思うような工夫がされている。 ・表現活動に必要な知識・技能を得た上で、読んで理解を深め、表現する単元構成になっており、段階的に自己表現活動に繋がるように配慮されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫があるか。	・冒頭で小学校で学んだ表現を整理する形式をとっており、小中接続期の充実に図っている。音声中心の学習からスムーズに文字につながるような工夫がされている。 ・使用目的や場面に気付かせるように、Unit扉でリスニングでの新出文法を導入している。 ・文が平易であり、理解しやすい。 ・多様な文化に触れたり、違いに気付いたりする題材に工夫が見られる。 ・Unitでの学習で身に付いた力を確かめるStage Activityが設定されている。4技能5領域を統合的に扱い、「話す」「書く」活動で評価できる形式になっている。	・1学年では、新出表現は小学校と同じように導入されており、小中の接続が図られている。 ・各課の目標・評価の観点が扉で示され、写真やリスニングで題材への興味付けが図られている。 ・マンガ形式での会話をSceneで示し、使用場面を意識しながら、簡単な活動を通して新出表現の理解を深めるような工夫がされている。 ・Programで身に付けた力を用いて、自分が言える内容を選んで本文を再話すRetellが設定されている。 ・Retell後にInteractが設定されており、即興での表現力を育成できるような流れになっている。	・1学年では、Hello EveryoneとStarterがつけられて徐々に視点が広がるような内容がふりかえる内容になっている。 ・QRコードを読み取り、アニメーション視聴しながら導入や内容を理解できる工夫がされている。USE Readでは読む前にスキーマを活性化するための資料映像が視聴できるようにしている。 ・統合的活動を行うProjectが学期1回設定されている。 ・SDGsについて知識や考えを深めたり、知的好奇心をもたせられるような題材設定の工夫が見られる。 ・USE Readでは、学年が上がるごとに語彙数が増えるなど、段階的に読む力をつけられるようになっている。 ・巻末にRole-Play Sheetが付いており、教科書のskitを参考にロールプレイで練習することで即興でのやりとりができるようになっている。	・身近な内容から始まり、学年が進むにつれて徐々に視点が広がるような内容になっており、生徒の発達段階に配慮された題材が設定されている。 ・1学年巻頭に、Springboard1〜4が設定されており、小中のスムーズな連携を意識した工夫が見られる。Lesson1〜3までは、小学校と同様に音声中心の活動で構成され、言語の知識・理解や読む・書く技能へとつなげる工夫がされている。 ・全Lessonに「聞く」活動が設定されている。Think & Try!やTask、Projectにおいて、統合的に活動できる工夫がされている。 ・ペア・ワークによる口頭練習が継続的にを行い、即興で話す力を身に付けられるようActivities Plusが設定されている。	・1学年では、Let's Be Friendsを設定し、小中の円滑な接続が図れるような工夫がされている。 ・3年間一続きのストーリーからなり、共感しやすい内容になっている。QRコードから全Unitのスライドアニメが視聴でき、場面や目的が把握しやすい工夫がされている。 ・各Unitの最後に、ストーリーの内容を踏まえて自分ならどうするかなどを考えるThinkが設定され、友達など対話しながら考えを深めていける工夫がされている。 ・身近な話題について即興的に話すLet's Talkやリアルな場面や状況の英語を見聞きて、実社会に即した英語の力を伸ばす工夫が見られる。	・UseやExpress Yourself、Projectなどで、ペアやグループで意見や考えを伝え合う活動が設定されている。 ・新出語句と本文の音声をQRコードで読み取り聞くことができる。 ・実在の人物や実際の出来事をリアルな題材として取り上げ、生徒の興味・関心を引き出す工夫が見られる。 ・1学年では、Let's Startが7課設けられている。アルファベットの書き方では、4線の2段目が少し広いものを採用しているため、文字の形が崩れないような配慮がされている。
3 配列・分量	○単元の構成や教材の配列には、どのような特色があるか。	・題材、活動についての学習に見直しや到達目標が単元冒頭に提示される等の配慮がなされている。テーマに即した場面設定がなされ、多様な言語活動の展開を目指した配列に特色がある。 ・1学年ではUnit0〜5において、「気づきから文法へ」、「音から文字へ」といった小中連携を意識した構成になっている。さらに、Unit6〜11においては、これまでに学習したことをスモールステップで言語活動に取り入れ、繰り返し使うことによって使える文法へと導く単元内構成になっている。 ・2、3学年は1学年のUnit6〜11と同様。 【新学習指導要領で文法事項の追加にもなっており、指導学年の異なる文法事項の配列】 ・すべての学年にUnit0がある。(前学年の復習) ・受け身(2) ・現在完了形、現在完了進行形、間接疑問文、仮定法(3) 【分量】 ①167ページ ただし、本文は126ページ11課 ②159ページ ただし、本文は133ページ8課 ③155ページ ただし、本文は122ページ7課 名作鑑賞「The Letter」	・言語材料、話題、思考・表現についての学習の見通しや到達目標が、単元冒頭に提示される等の配慮がなされている。4段階構成の流れに沿って、「知識・技能」→「思考力・判断力・表現力」→「学びに向かう力」へと向かっていくことができるような言語の習得過程に即した配列に特色がある。 【新学習指導要領で文法事項の追加にもなっており、指導学年の異なる文法事項の配列】 ・1年生のみにPROGRAM0がある。 ・受け身、現在完了形、現在完了進行形(2) ・間接疑問文、仮定法(3) 【分量】 ①159ページ ただし、本文は130ページ10課 ②159ページ ただし、本文は124ページ8課 ③151ページ ただし、本文は118ページ7課	・習得と活用という視点から、学習の見通しや到達目標が、単元冒頭に提示される等の配慮がなされている。学習過程において自分の考えを表現することを重視した言語活動の配列に特色がある。 【新学習指導要領で文法事項の追加にもなっており、指導学年の異なる文法事項の配列】 ・現在完了形(2) ・受け身、現在完了進行形、仮定法、間接疑問文(3) 【分量】 ①147ページ 巻末付録にはページ数の表記なし 8課 ②125ページ 巻末付録にはページ数の表記なし 7課 ③129ページ 巻末付録にはページ数の表記なし 7課	・単元全体の内容について広く問いかけ課題が、単元冒頭に提示される等の配慮がなされている。読むことを基盤とした言語活動を各課に組み込む等、技能統合を意識した配列に特色がある。 ・1学年ではLesson3で一般動詞の使い方(三単現)、Lesson4で過去のことを表す文(過去形)を取り扱う構成になっている。 【新学習指導要領で文法事項の追加にもなっており、指導学年の異なる文法事項の配列】 ・Review Lesson Part(前学年の復習)(2)、(3) ・受け身、間接疑問文(2) ・現在完了形、現在完了進行形、仮定法(3) 【分量】 ①163ページ ただし、本文は130ページ9課 Further Reading「The Letter」 ②167ページ ただし、本文は128ページ9課 ③167ページ ただし、本文は120ページ7課	・学習到達目標とともに、テーマについて予測し、聞き取る活動が単元冒頭に提示される等の配慮がなされている。円滑な目標到達に向けて、ペアやグループで取り組む言語活動の配列に特色がある。 【新学習指導要領で文法事項の追加にもなっており、指導学年の異なる文法事項の配列】 ・受け身(2) ・現在完了形、現在完了進行形、仮定法、間接疑問文(3) 【分量】 ①175ページ ただし、本文は150ページ8課 ②175ページ ただし、本文は142ページ8課 ③175ページ ただし、本文は128ページ8課	・セクションごとの学習到達目標が単元冒頭に提示される等の配慮がなされている。具体的場面の中で文法事項を繰り返し活用することを重視しながら自己表現活動へとつなげる配列に特色がある。 【新学習指導要領で文法事項の追加にもなっており、指導学年の異なる文法事項の配列】 ・受け身(2) ・現在完了形、現在完了進行形、間接疑問文(3) 【分量】 ①151ページ ただし、本文は121ページ10課 ②159ページ ただし、本文は125ページ8課 ③143ページ ただし、本文は104ページ6課
4 表記・体裁	○表記や表現、体裁についてどのような工夫が見られるか。	・1年生は、UDフォントを使用して見やすい。 ・QRコードがあり、自宅でも音声の確認ができる。 ・A4版見開きで、学習内容が分かりやすく配置されている。また、紙面が大きくなったことでページ下に小学校の単語、音声チェック欄があり、1ページの情報量が多い。 ・Unitの最初の写真とQuestionで生徒の興味関心を高められる。また、単元のゴールも明確に示されている。 ・Unitの終わりに自己評価欄があり、学びの確認ができる。 ・まとめのページが分かりやすくまとめられている。 ・巻末のword listが充実 ・can-doリストが裏表紙にある。	・1年生は、手書きに近いフォントやゴシック体が使われるなど段階に応じた配慮が見られる。 ・QRコードがあり、自宅でも音声の確認ができる。 ・Programの始めの写真にインパクトがある。また、単元のゴールが明確に示されている。 ・まとめの文法説明が「主語」「動詞」「目的語」「補語」が色分けされていて「語順」の理解がしやすい。 ・ターゲットセンテンスが1ページに集約され、実際の使用場面が想像しやすい。 ・ターゲットセンテンスと本文の内容に関連性がない。	・1年生では、独自開発のフォントを使用している。また、目的に応じて複数のフォントを使用し読み書きに関する配慮が見られる。 ・QRコードがあり、自宅でも音声の確認ができる。 ・AB版見開きで、学習内容の配置が固定されている。 ・はっきりとした色使いでイラストが描かれていて見やすい。 ・各Lessonの最初のページの写真とQuestionで生徒の興味関心を高められる。 ・巻末のWord Listが充実している。	・1年生ではローマン体と「ブロック体」の「書体を段落ごとに機能的に使い分け、読みやすさ」に配慮がみられる。 ・QRコードがあり、自宅でも音声の確認ができる。 ・教科書本文と、その他の学習内容が分かりやすく配置されているが、AB版のためイラストが小さく感じる。 ・各Lessonの最初のページの写真とQuestionで生徒の興味関心を高められる。また、ゴールが明確に示されている。	・1年生では、独自開発の手書きフォント「書体を段落ごとに機能的に使い分け、読みやすさ」に配慮がみられる。 ・QRコードがあり、自宅でも音声の確認ができる。 ・各Lessonの最初のページの写真とQuestionで生徒の興味関心を高められる。また、単元のゴール設定が明確である。 ・3年間一続きのストーリーがテーマのため、教科書本文の中は、イラスト中心になっている。 ・巻末に常活動で使用するLet's talkがあり、small talkに有効である。 ・AB版見開きで、本文とその他の活動が分けて配置されている。	・1年生では、UDフォントを用いて、より多くの生徒が容易に認識できるよう配慮されている。 ・QRコードがあり、自宅でも音声の確認ができる。 ・各Lessonの最初のページの写真とQuestionで生徒の興味関心を高められる。 ・AB版見開きで、学習内容の配置が固定されている。